



ニューロング秋田株式会社

先端技術産業の土台を担う

銅箔の世界的な需要拡大に応える

▶▶ 紙工機械や銅箔製造機を設計製作

ニューロンググループは、マシン修理業を発祥とする包装システムのトータルエンジニアリングメーカーだ。ニューロング秋田株式会社は、グループの製造委託先だった企業を母体として、その製造拠点のひとつとして1997年に設立。時代の変遷とともに、製袋用マシンから印刷・製袋機などの紙工機械の製造へと主事業をシフトし、ニッチな市場向けに高いシェアを維持してきた。2000年には第二工場を建設し、電解銅箔製造用のチタンドラムの製造を開始。当時、銅箔はプリント電子基板の用途に需要の伸びが期待されていたため、次の有望な分野として挑戦したものであった。以来、

電子機器の普及とIoT化により銅箔市場は拡大を続け、脱炭素化の流れで電気自動車の需要が飛躍的に拡大している今、リチウムイオン電池用をはじめとした銅箔の生産は世界的に追い付いていない状況だ。同社は2018年に第二工場を増設し、現在世界有数のチタンドラムの生産台数を誇るが、2021年7月に経済産業省の「サプライチェーン対策のための国内投資促進事業費補助金」の採択を受け、さらなる増設工事を進めている。需要拡大に対応するため、2022年夏の稼働開始を目指して新たに20名を採用し、増産体制を整えているところだ。

経営探訪

▶▶ 世界最高品質を支える熟練の技術

紙工機械は、加工対象の材質や厚み、完成品の形やサイズもさまざま、受注はほぼオーダーメイドだ。試行錯誤を重ねて設計し、汎用加工機で部品を精密に加工して組み上げ、調整する。技術者の手作業が不可欠で、ひととおりの技術を習得するには10年はかかるという。先端技術を支えるチタンドラムの製造は、手作業での微調整が要で、同社は独自にその技術を確立し磨いてきた。ドラムは大きいものだと直径3メートル。銅箔はその表面に電着させて製造されるため、ドラムの平滑さが銅箔の品質を左右する。モバイル機器などの小型化・薄型化が進み、数マイクロメートルという薄さの銅箔が求められる。同社は品質、出荷数ともに世界トップレベルのチタンドラムでその生産を支えている。受注は2年先まで埋まっており、「爆発的な需要増で競合が増えています。品質を求めて当社を選んでくれる顧客の期待に応えたい」と佐藤耕次社長は話す。

チタンドラムの工程を担える人材は限られているため、この工程では計画的な配置転換を行い、コア技術を持つ人材の育成に取り組んでいる。



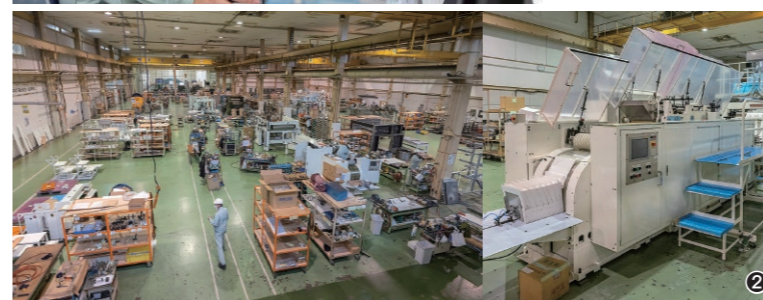
チタンドラムの製造を担う第二工場。高度な技術で成形や外径の切削を行う。

▶▶ 国内外から求められる技術を誇りに

同社では、製造技術者が、セールスエンジニアとしてグループの営業部門へ出向する制度がある。佐藤社長が始めた取り組みのひとつだ。顧客と直接関わることで、自社の技術や製品が求められる喜びを再認識すること、売上などを含めた営業面から自社を見ることで、業務への理解を深め仕事の幅を広げることが狙いだ。「製造部門は顧客の顔が見えにくいので、社員ひとりひとりが世界的な需要を実感し、それを支えていくという意識をより強く持つためにも、人事交流はさらに強化していきたいと考えています」と佐藤社長は話す。また、技術の継承のため、戦略的な中途採用で従業員の年齢構成バランスを整え、2020年からは定年を65歳に引き上げて再雇用も行っている。女性技術者も増やしていきたい意向だ。「チタンドラムに関しては、品質を保ちながら、生産量を増やすことが急務です。技術を伝えていくことを念頭に体制を整え、世界的な需要に応えていきたいです」。



- ① 3D-CADシステムを使用して様々な機械を設計。
- ② 第一工場では、製袋機や印刷機、スリッター機等の部品加工と組み立てを行う。



高い精度を保ち、ユーザーの信頼に応え続けていきたいです。

代表取締役社長 **佐藤 耕次**
さとう こうじ



ニューロング秋田株式会社

〒018-3501 秋田県大館市岩瀬宇羽貫谷地山下66
TEL.0186-54-0667 FAX.0186-54-0669
<https://www.newlong.com/nlg/factory/akita.html>
創業/1997年 資本金/10,000万円 従業員数/130名
業務内容/紙加工機械及び銅箔製造装置の製造

